

産業ロボット 最新型を見学

甲子園
アイデア
向け県内高校生

産業用機器の販売を手がける大豊産業（高松市）は、高校生らが新しい産業用ロボットのアイデアを提案する「ロボットアイデア甲子園」群馬大会（11月12日）の開催を前に、最新のロボットについて学ぶセミナーと見学会を、グループ企業の



3Dスキャナーの説明を受ける参加者

日本治具（太田市東金井町）で開いた。太田工業高と県立太田産業技術専門校の生徒14人が参加した。

セミナーでは日本治具の寺奥泰次郎社長が、ロボットを活用したシステム構築を行う「システムインテグ

レータ」について説明。参加者は3Dスキャナーや産業用ロボットなどを見学した。参加した太田工業高2年の富所海太さん（17）は「想像以上にロボットの進化を感じた。甲子園で他のアイデアも見てみたい」と話してい

た。
大会は一般社団法人日本ロボット工業会などが主催し、地区大会が本県で開かれるのは初めて。群馬大会の最優秀者は、来年1月に開かれる全国大会に進む。
（丸山仁見）